



大森創作太鼓



八神純子さん

モアイ像贈呈記念祝賀会

記念式典が行われた同日、町内のホテルにおいて「モアイ・プロジェクト」の主催者である日智経済委員会の皆様とご協力いただいた国内関係者の方々、地元関係者等、総勢200名程が一堂に会して贈呈記念祝賀会が行われました。

佐藤町長からの御礼の言葉、後藤町議会議長による乾杯発声の後、和やかな雰囲気です。郷土芸能として大森創作太鼓や山流水戸辺鹿子躍が披露されると会場は大盛り上がりとなりました。また、震災後に何度も町を訪れご支援いただいた、イタリア料理で有名なアルケッチャーノのオーナーシェフである奥田政行氏が料理を振舞い、歌手である八神純子さんが歌声を披露するなど、祝賀会に花を添えていただきました。



水戸辺鹿子躍



南米チリ・イースター島のモアイ像を震災復興のシンボルとして
宮城県南三陸町に贈呈する「モアイプロジェクト」
モアイ像 贈呈記念式典

モアイ像がやってきた!!



南三陸町にモアイ像がやってきました。それに伴い、5月25日(土)に皆さん商店街駐車場特設会場にてモアイ像贈呈記念式典が行われました。チリのイースター島から、東京・大阪を経由してやってきたモアイ像。このモアイ像は同じ巨大津波を経験したチリのイースター島の先住民、トゥキ家の方々が制作し、日智経済委員会(エスペランサ委員会)の支援によりチリ共和国から贈呈されました。モアイのモには「未来」、アイには「生きる」という意味があるそうです。

記念式典には、200名以上の方々を訪れました。モアイプロジェクトに携わっていただいた日智経済委員会チリ国内委員長のロベルト・デ・アンドラツカ氏、日本国内委員長の佐々木幹夫氏、チリ共和国イースター島海軍指揮官クラウディオ・モンテネグロ氏、駐日チリ共和国大使パトリシオ・トレス氏、ベネディクト・トゥキ氏をはじめトゥキ家の方々にもご臨席いただきました。式典ではモアイ像の除幕式と開眼式が行われました。モアイ像にはめ込まれた目は白いサンゴと黒曜石で作られていて、この目に先祖の魂が宿ると言われています。南三陸町に魂を宿したモアイが誕生しました。

チリ共和国より記念碑プレートも贈呈されました プレートに刻まれたメッセージを紹介します

チリ共和国より
2011年3月11日、南三陸町は大地震と大津波により壊滅状態となりました。この自然が引き起こした悲劇が忘れ去られることがないように、チリから日本の皆様にモアイ像を寄贈させていただきました。

このモアイ像は、人類史上まれにみる悲劇によってなくなった方々に対する全チリ国民の親愛、友情、敬意、そして、深い弔意を表して、チリのイースター島(スペイン語でバスクア島、先住民語でラパヌイ)にて制作されたものです。島の先住民であるベネディクト・トゥキ氏が、父マヌエル・トゥキ氏の指導の下、家族全員の大きな支えを受けて彫り上げた作品です。

このモアイの力強さと巨大さが南三陸の人々の心を奮い起こし、人々が災害後の日々を強く生き抜いて行かれますように。そして、心のふるさとであるこの入り江にかつての漁場が一日も早く復活し、人々に喜びと幸せが戻りますように。



アンナマリア・トゥキ 女史



高木 啓文氏



左野 勝司氏

モアイ像贈呈記念講演会

5月26日、町内の会合施設において、贈呈記念講演会が行われました。講演会には約80名の方々が集まり、イースター島においてモアイ像の修復作業に携わった、石工の左野勝司氏、重機を提供した(株)タダノの高木啓文氏による体験談と、イースター島の民俗文化について、アンナマリア・トゥキ女史による講演が行われ、知っているようで知らなかったモアイとイースター島の魅力について貴重なお話をいただきました。



佐々木幹夫氏



ロベルト・デ・アンドラツカ氏



パトリシオ・トレス氏



ベネディクト・トゥキ氏



クラウディオ・モンテネグロ氏